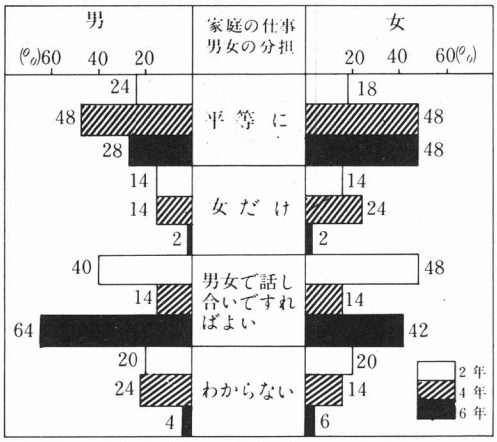
7）家庭の仕事を男女でどのように分担すればよいと思うか。

表20：家庭の仕事の男女の分担

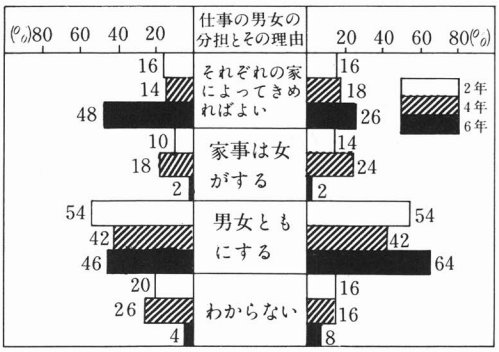


家庭の仕事の分担の仕方について4項目あげて質問した結果，全体として「男女で話し合いですればよい」が約37%で1位，次いで「平等に」となっている。

4年生では男女とも「平等に」が多いが女子は「女だけ」と答えた割合が比較的多い。

「わからない」が2年・4年に多くみられ教育の必要がある。

表21：家庭の仕事の男女の分担とその理由



家庭の仕事の男女の分担とその理由については，全体として「男女ともにする」が約50%で主流を占めている。特に6年の女子に多い。次いで「それぞれの家によって，きめればよい」が約23%となっている。4年以下では「わからない」の割合が高くなっている。

(4) 家庭生活の認識に関する調査のまとめ

児童の家庭生活の認識の程度について

① 家庭生活の存在価値

② 家庭生活の機能

③ 家庭の役割

以上の内容から学年段階，性別による発達の状況を見てきたが，調査から次のことがうかがえた。

1）家庭生活の存在価値

家庭の存在に対して肯定的な意識が見られるのは，児童が学校から家に帰ったときの気持ちで「ほっとする」41.7%，「うれしい」18.3%（計60%）である。

否定的な意識と思われるのは，「つまらない」10.6%である。

意識が薄いと思われるのは，「何も感じない」23.3%である。

学年別では，「ほっとする」が学年進級とともに増加し，男女間では女子が高い。

「うれしい」は学年の進級につれて減少する傾向が見られる。

帰宅時の気持ちとその理由では，「ゆっくりできる」の28%，「好きなことができる」の18.6%（計46.6%）が家庭を自己解放の場として肯定的に意識しているとみられる。

否定的に意識しているとみられるのは，「家族がうるさい」2%，「家庭の仕事をさせられる」1%（計3%）である。

2）家庭生活の機能

家庭の役目（働き）を10項目あげ，その中から児童が大切と思うものに○をつけさせた結果，2年～6年まで共通して

1位　家族のみんなが楽しく過ごす

2位　子どもをよい人間に育てる

であった。